

「中学校部活動の地域移行」について

年度	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
学年ごとの子どもたちの活動	中学校部活動（～2026年8月末）		地域クラブ活動「プレミヤ」	
	中1	中2	中3	
	小6	中1	中2	中3「プレミヤ」 その後、「プレミヤ」に参加することができます。
	小5	小6	中1	中2「プレミヤ」 その後、「プレミヤ」に参加することができます。

国の方針の下、中学校部活動の地域移行の取組みは各自治体単位で行われています。

西宮市では「プレミヤ」と名付け、地域への移行を目指し、令和8年9月から本格実施する予定で進められています。

休日の中学校部活動は令和8年8月末で終了し「プレミヤ」が新たに始まりますが、平日の中学校部活動の終了時期については現在検討中です。

《以下、当局答弁より》

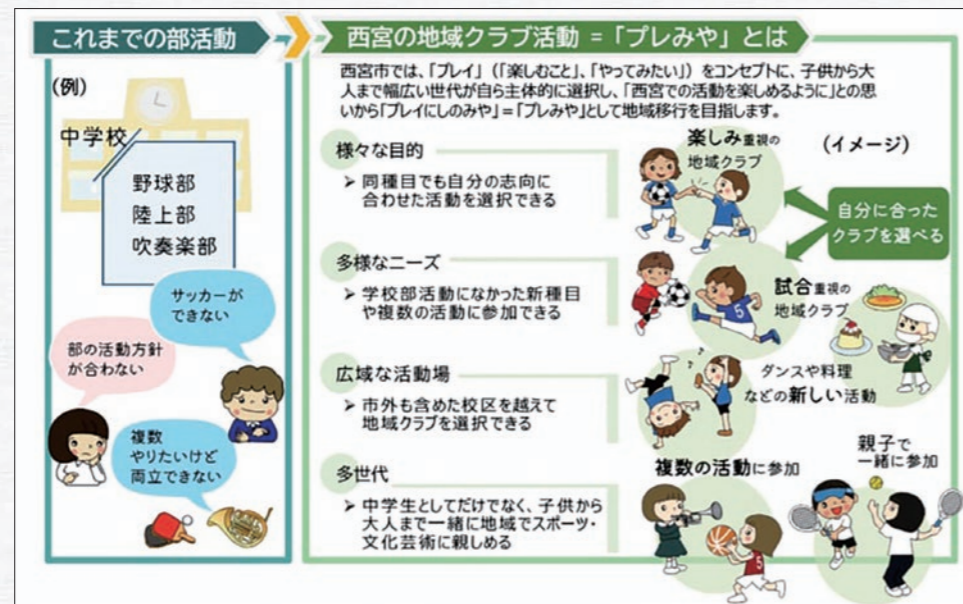
●子供のニーズは多様化し部活動にはない種目や活動方針のものを希望する場合も多い。「プレミヤ」は中学校部活動にない活動も充実させるとともに、通っている学校に関係なく活動を選べるため、自身の志向に合った活動を選びやすくなる。



- 「プレミヤ」は多世代で参加する活動も充実させ、小学校での活動の継続や、親子と一緒に参加も可能になる。子供から大人までスポーツ・文化芸術活動に継続して親しみやすくなる。
- 会費については、活動内容、活動日数や時間、指導者レベル等が「プレミヤ」クラブごとに異なることから一定の基準を設けることは考えていないが、市が学校施設の使用を低廉な価格で許可すること等によって「プレミヤ」クラブには極力負担の少ない価格設定とするよう求めている。経済的に困窮している家庭への支援の在り方については現在検討中。

- 安全体制の構築、活動時のトラブルは従来の地域スポーツ活動、文化芸術活動と同様に各団体の責任において対処していただく。統括団体において登録団体への支援として、けがの予防や救急救命等の研修を実施し、また参加者や保護者等からの相談窓口を設ける。

令和8年9月からの実施に向け整備が急がれていますが現状は不明点も多いです。休日部活動の移行の時期は決まっていますが、平日部活動の移行に関しては当事者である子どもたちや保護者、教員、指導者や地域住民の皆さん等の意見を聞き、丁寧な説明を重ねることを要望しています。



西宮市議会議員

宮本けいこ 通信 vol.6

現在2期目、民生常任委員

想いっなく



子育て真っ最中!! 3児のママ議員

日々の活動はこちらから▶



Instagram

X (旧 Twitter)



令和7年3月定例会がスタートしました

西宮市施政方針等より一部抜粋

- ▶「幼児教育・保育センター」で就学前から就学後の切れ目ないサポート
- ▶「ひきこもり地域支援センター」で様々な福祉課題の解決に取り組む
- ▶中学校部活動の地域移行への環境整備(詳しくは裏面に)
- ▶学校施設のトイレ環境改善及び洋式便器化
- ▶鳴尾浜臨海公園南地区再整備(旧リゾ鳴尾浜、芝生公園等)
- ▶高齢者を対象とした認知症無償診断事業の実施に向けた準備
- ▶救急ワークステーション整備((仮称)西宮総合医療センター敷地内)
- ▶江上町市有地(旧江上庁舎、旧保健所庁舎解体後)跡地活用の検討



鳴尾浜臨海公園南地区再整備

西宮市の不登校児童生徒数は令和3年度以降、3年連続で1,000人を超えており、小学校、中学校ともに全国平均よりも発生率が高くなっています。市内7つの教員支援センター「あすなろ」の他、校内サポートルームの設置や「学びの多様化学校」の設置に向けた検討が進められます。また市内には子どもたちが安心して過ごせる居場所や親の会も多くの支援団体の皆さまによって運営されています。



不登校児童生徒の支援先

広報委員会委員として

西宮市議会だよりの発行や市民祭りでの議会体感ツアー開催など、市民の皆さまに市議会をもっと知っていただくよう活動しています! また市政施行100周年記念事業として「子ども市議会」も開催されました。



宮本けいこ プロフィール

1979年4月生まれ 津門稲荷町在住(立憲民主党所属)
大阪市立工芸高等学校 ビジュアルデザイン科卒
結婚後、平成医療学園専門学校 鍼灸師科卒
鍼灸師・障害者スポーツ指導員
西宮市立津門小学校・今津中学校PTA総務役員

2021年7月、西宮市議会議員だった夫(宮本かすなり)が会議中に脳幹出血で倒れて意識不明に。そのまま息を引き取った。その日から突然3人の子どものシングルマザーに(子ども1歳、6歳、12歳(当時))。夫の遺志をつなぎ、またひとり親や立場の弱い人に寄り添いたいと立候補を決意。
2022年3月西宮市議会議員補欠選挙で初当選。2023年4月西宮市議会議員選挙で4,229票のご信託を賜わり2期目当選。民生常任委員会委員、西宮市社会福祉審議会委員(児童福祉専門分科会)
4歳の保育園児(やんちゃ!)、9歳小学生、15歳中学生を育てながら日々議員活動奮闘中!



宮本けいこは皆さまの声を市政に届けます
皆さまの想いを聞かせてください。ひとりひとりの声を届けます
困ったときに困ったと言える社会、助けての声が届く西宮へ

西宮市議会のホームページはこちら



ご意見・ご相談はこちらまで

メール・・・miyamoto.keiko4@gmail.com
TEL/FAX・0798-34-1760

メールはこちら
留守番電話になっておりますのでご連絡先とメッセージをお願いします



一般質問を行いました。裏面もご覧ください▶

令和6年度一般質問（6月議会・12月議会）の一部抜粋



←6月議会の動画はこちらから

12月議会の動画はこちらから→



熱中症対策について

クーリングシェルター・クールシェアスポットの設置、夏休み期間中の自習室開放

留守家庭児童育成センターについて

待機児童の対応、気象警報発令時の開所、質の向上

こども誰でも通園制度について

保育所の待機児童が多い中での市の考え



①留守家庭児童育成センターについて

宮本：令和6年度4月時点での待機児童数は174人、41校中14校の育成センターで待機が発生し、保育所の待機児童と同様とても深刻な現状となっている。今後の見直しと対応について聞く。

答弁：本市の人口総数は減少傾向だが保育ニーズの高まりを受け、育成センターへの申込者数は年々増加傾向にあり、今後も待機児童の発生が予想される施設がある。学校の余裕教室等の活用、民設放課後児童クラブの整備、公民館などの公共施設の活用も視野に入れた検討を進める。



宮本けいこの提案

待機児童の解消を第一に取り組み早急な改善を求めます。ただ量の確保のみに目的がならないよう、子どもの声を聞き、全ての子どもが生き生きと過ごせる放課後の居場所となるように、また時には学校以上に長い時間を過ごす育成センターが子どもたちにとってより良い場所となるようお願いしたい。

オストメイトについて

約30年間据え置きのスーパ装具の給付基準額の見直し、災害時の避難所用トイレ

はり・きゅう・マッサージ施術費補助事業の年齢要件見直し案について

西宮浜総合公園北多目的広場のグラウンドの石が多く危ないという声について

停電時の避難所について

各避難所の非常用電源、避難者の充電環境、外部給電設備について

子どもの目の健康について

自転車の交通安全・マナー向上について



②オストメイトについて

（オストメイトとは直腸がん、膀胱がんなどの病気やけが、事故などによりお腹に排せつ口であるストーマを増設した人のことを言います）



宮本：オストメイトにとって排せつケアに要するストーマの装具類は生きていくためになくてはならない必需品です。障害者日常生活用具給付等事業の給付基準額は約30年間据え置かれたままで自己負担額が増えている。実態に合った見直しが必要では。

答弁：利用者から基準額の増額を求める要望も増加しているが、事業費の拡大などの課題を踏まえるとストーマ装具の基準額の見直しは困難。他の用具も含めた実勢価格や利用者負担の調査を行い他市の基準額や事業費の動向に注視する。

宮本けいこの提案

実態と乖離した基準額の見直しを求めます。またオストメイトは外見では分かりづらい内部障害であるため社会的な理解が十分に進んでいない部分もある。バリアフリートイレなどを利用しにくい等、心理的なストレスも受けやすい。当事者の声をしっかりと聞き施策を進めていただきたい。



③はり・きゅう・マッサージ 施術費補助事業について

宮本：対象年齢を70歳から75歳以上に引き上げるという見直しだが、鍼灸の未病を治すという考えでは、より早期の段階からの施術費補助券の交付が健康維持につながると考えます。現状のままでの運用が必要と考えるがどうか。

答弁：本事業は昭和58年から実施。福祉の増進を図ることを目的としているが、平均寿命は本事業を開始した当時から約40年で男女とも7年以上延びており、年齢要件を変更しても75歳以上への補助を継続することで事業の目的は実現できるものと考えている。

宮本けいこの提案

寿命は延びても年齢の節目で体が変化し不調は増えていくと思います。市民の健康維持・健康増進に寄与していると考えられるため現状での継続を求めます。パブリックコメントの声、意見をしっかりと踏まえて検討して欲しい。

一般質問やパブリックコメントでいただいた意見も踏まえて、当初の引き上げから、段階的に1才ずつ引き上げられる計画に変わりました。

見直されました！



民生常任委員会では市民局、産業文化局、環境局、農業委員会の政策を扱い、地域コミュニティや文化・スポーツの振興、商工政策、防犯対策、ごみ処理場など幅広い内容を担当しています。今年度は市民交流センターと大学交流センターの再編、勤労青少年ホームの閉館や東部総合処理センター破砕選別施設整備（主に不燃ごみ、粗大ごみの処理を行う施設）、生活系ごみ分別区分の見直しについて（令和8年度から）、斎園事業の方向性について等を取り扱いました。

阪神淡路大震災から30年。また南海トラフ地震など巨大地震がいつ来るか分からないとされ、最近も全国各地で地震が頻発しています。12月議会では西宮市での防災の取り組みについても質問しました。

④停電発生時の避難所について

宮本：停電発生時の各避難所には非常用電源の備蓄が進められているが、住民ニーズが高い避難者の個々のスマートフォンなどに対する通信機器の充電環境の現状は。

答弁：兵庫県を通じ指定公共機関である通信事業者に対して携帯電話などへの充電に関する支援を求める。しかし市で確保できる電源には限りがあるため、モバイルバッテリーの確保など、日頃から個人の備えを進めていただくよう引き続き市民への啓発を進めていく。



宮本けいこの提案

個人での備えの啓発とともに、やはり自治体としても最大限の想定と準備を求めます。

⑤子どもの目の健康について

宮本：今後ICT教育が更に進んで行く中、学習の中でもタブレットを使用し、家庭でもデジタルに触れる機会が多い児童生徒の目の健康を守るため学校・家庭双方での取り組みが必要では。

答弁：裸眼視力1.0未満の児童生徒の割合が全国平均と比較して高いことを受け、令和2年度から西宮市医師会の協力の下、目の健康のために日常生活で留意すべき五つのポイントをまとめた宮っ子アイ・ケア5を策定し、児童生徒に啓発・家庭にも共有している。

宮本けいこの提案

児童生徒の目の健康を守るとともに、乳幼児期から健やかな子供の視力の発育と視力低下の予防が重要と考える。乳幼児健康診査等で乳幼児期の保護者への目の健康の重要性に関する周知と啓発に取り組んでいただきたい。